質疑応答 ①「熊本豪雨被災地の現状と課題～熊本県八代市坂本町を対象として～」熊本県立大学 柴田 祐 先生

NO.	頁	質疑区分	質問事項	回答
1	P3 P5	被災要因（本川と支川）	支川からも堆積土砂の粒径から相当な流速の流量が流下したと思われますが、球磨川本川からの被害が卓越しているのでしょうか。 要因等分かれば教えてください。	そのあたりの専門知識を持ち合わせておりませんので、私には判断できません。 が、現地を見る限り、支川からも相当の水と土砂が流れてきていることは間違いなく、どちらかが卓越しているとは言い難いような気がいたします。 曖昧な答えで申し訳ございません。
2	P4	被災者のダム建設に対する考え	被害の状況や応急復旧について興味深く読ませていただきました。2階の天井付近までの浸水ですと対策は困難であり、そこに住み続けるのはリスクが非常に高いと感じました。 球磨川水害では、川辺川ダムが出来ていれば効果があったであろうと言われています。環境団体等からは建設反対の声が大きいようですが、実際に被災した方達はダム建設にどのような考えをもっているのかご存じでしたら教えてください。	坂本町内のことしか私には分かりませんし、坂本町内でも網羅的にヒアリングをしたわけではありませんが、ダムはいらないという声が私にはよく聞こえてきます。 一方で、ダムがいる、いらないで、地域が、被災者が再び2分されてしまうのも不幸なことだと思います。どちらの立場にしろ、透明性の高い議論と、丁寧な情報提供が不可欠だと思いますので、国、県には、そのあたりをしっかりやって欲しいなと思っています。
3	P5	支援団体の発足起源	コロナ禍で県外ボランティアが少ない中、「坂本町では、被災者を中心とする支援団体が泥だしなどの復旧活動を行った（論文 p.5, 4.(1)）」ことについて、今後の災害復旧の参考になる事例だと思いました。 この支援団体は、災害時に自発的に発足されたものなのでしょうか。 それとも、災害前から元となる集まりがあったのでしょうか。教えてください。	この動きは私も今後につながる可能性を持っていると期待をしていますが、支援団体という形で災害前からあった集まりではありませんが、もちろん、災害前からそれぞれの立場、仕事、友人でなんとなくのグループがあり、それがベースとなっています。 災害後、自発的、自然発生的に支援活動をしていくうちにグループができていったということだと思います。 また、全体としてもそれぞれお互いに全く知らない訳ではもちろんなく、知り合い同士であったということも大きいと思います。
4	P6	復興（コミュニティ力の定量的評価）	論文P6に「人口減や高齢化率といった数字では測れないコミュニティの力が地域にはあり，それを活かしながらハード整備とソフトの支援を両輪として復興を進めることが何よりも重要なことである」と述べられており、まさしくそのとおりだと思います。 これに関連しまして、コミュニティ力を定量的に評価する方法として先生が考えられている指標、アイデア等がございましたらご紹介いただけると幸甚です。	コミュニティ力を定量的に評価する方法については、私もこれまで色々な研究をしてきていますが、一つの手がかりは神社や祠の祭りではないかと思っています。これも決して定量的ではないのですが、コミュニティ力が高くないとお祭りを継続して実施できませんので、指標となるのではないかと思っています。 熊本地震の際、神社の本殿等が被災して、自分達も被災して、だからこそお祭りをちゃんとやった集落と、しばらくお休みした集落では、やはりコミュニティ力が違うと思います。新型コロナウィルスの感染拡大への対応でも同様の対応の差が見られます。 定量的ではありませんが、一つの指標になると考えています。
5	P6	復興（転出者の呼び戻しなど）	大規模災害からの「復興」について、被災地からの転出者も多い中、人を呼び戻すような具体方策につきまして、お考えありましたらご教示いただければと思います。	一人で、若しくは、その世帯内だけで考えるだけでなく、集落の住民で集まって、みんなで話す機会を設けることだと思います。どこで生活を再建するのか、一人で考えると、安全性や利便性、快適性などしか、判断材料がありません。 もちろんそれも必要ですが、住民同士で集まって状況を報告し合ったり、困りごとを相談し合ったりすることを通じて、徐々に、どこで生活を再建しようかと考えていくと、上記の条件に加えて、ご近所付き合いや愛着、地域のお祭りなども検討材料に加わっていきます。 そのことがとても大切なことだと思います。

質疑応答 ①「熊本豪雨被災地の現状と課題～熊本県八代市坂本町を対象として～」熊本県立大学 柴田 祐 先生

NO.	頁	質疑区分	質問事項	回答
6	P6	復興（中山間地集落の存続）	復興に向けた視点について、ご指摘のとおり、個人の問題としてとどめていては解決に繋がらないと考えます。 立地適正化計画など、防災減災の主流化の流れを考えた場合、中山間地集落の存続について今後どのように取り組むべきなのか、どのような視点で考えていく必要があるのか等について、非常に迷う場面が多いため、お考えをお聞かせいただければ幸いです。	中山間地集落の存続について、そこは不便だからとか、行政的に金がかかるからとか、防災上の問題があるからといって、外から集約や撤退を持ちかけるのは間違っているといいますか、大きなお世話だと思います（情報提供、選択肢の提供は必要ですが）。そこに住み続けたいという人がいれば、それを実現させるのが国の仕事だと思いますし、移転や集約は、そこに住んでいる人から集落から出たいというような話しがあって、初めて成立する話だと思います。 なお、コンパクトシティはあくまで広がりすぎた都市をコンパクトにするのが主眼であるはずで、立地適正化計画は都市計画的なその手段の一つに過ぎず、同じ文脈で中山間地域の集落まで集約するという議論は、本来のコンパクトシティの趣旨からしても、論点がずれている、おかしなはなしだと私は思っています。
7	P6	復興（コミュニティを保持した復興実現上の必要条件・課題）	「5. 復興に向けた視点」で述べられている内容に関して質問です。 集落の集団移転を被災地の近傍（例えば、油谷川左岸の「くま川ワイワイパーク」の敷地を地盤嵩上げし用地を確保等）で実現できるのであれば、ある程度のコミュニティーを確保した復興が可能と思うのですが、それを実現するために必要となる条件や課題等についてご教示ください。	東日本大震災の被災地のような集落まるごと移転させるような集団移転は、時間も、金も、労力もかかりますし、するべきではないといいますが、必要なところは少ないのではと思います。一方で、同じ集落内でも下の方の住宅は被災したが、上の方は大丈夫という集落が多く、そのような集落では、被災した家屋のみ、その集落の上の方へ個別に移転するという「集落内移転」はありうると思います。が、空き家も多いことから、移転するというより、空き家に引っ越すということもそれに併用できるとなおよいと思います。坂本を見る限り、そのパターンの集落がほとんどで、あてはまらない集落は少ないと思います。

質疑応答 ①「熊本豪雨被災地の現状と課題～熊本県八代市坂本町を対象として～」熊本県立大学 柴田 祐 先生

NO.	頁	質疑区分	質問事項	回答
8	P6	復興（具体的に踏まえるべき教訓、球磨川らしさの内容、坂本町と人吉市の相違点）	・最後に記載されている「これまでの様々な災害の復興では，この点において　成功もしてきたし失敗もしてきた．これらの教訓を踏まえながら」という点に関し、坂元町の復興に当たって具体的にどのような教訓を踏まえるべきとお考えかご教示ください。 ・「球磨川流域らしいハードとソフトの両輪のあり方」という点に関し、「球磨川流域らしい」とはどのような内容であり、また例えば上流で被災した同じ球磨川流域の人吉市でのあり方とは異なるのかどうか、お考えがあればご教示ください。	東日本大震災の被災地のように大規模公共事業が先行し、被災者の暮らしの再建という観点が後回しにならないようにする必要があると思います。防潮堤の建設や集団移転の必要性を否定はしませんが、それらは暮らしの再建の手段であったはずなのに、いつのまにか目的化してはいなか、それが大きな問題ではないかと考えています。今回も、堤防や嵩上げ、ダムが、そのようなことにならないようにしなければならないと思っています。 球磨川らしいについては、私も何かイメージを持っているわけではなく、これから被災者の方々と行政が一緒になって、現場で試行錯誤をしながら、徐々に作り上げていくものではないかと思っています。例えば、熊本地震後の益城町の行政内部の仕事の仕方や雰囲気は被災前と大きく変わり、とてもよくなったと思っているのですが、それも一生懸命取り組まれてきた結果、そのような形で益城らしさが現れてきたということではないかと思います。 現場で試行錯誤をしながら、やっていくことで、球磨川流域らしい復興のやり方というものが、5年後、10年後、結果的に分かってくるのかなと思っています。 ただ、感覚的には、球磨川流域でも坂本町や球磨村、芦北町の球磨川沿いの人たちは、かつては舟運や製紙工場、ダム職員などで、生計を立てていました。それ以前は林業ですし、また、過去、球磨川の氾濫の度に住居の移転を繰り返してきてもいます。 ですので、農村的な土着の感覚は薄く、ある意味都市的な感覚をお持ちなのではないかと思っています。熊本地震の被災地とは、同じ中山間地でも少し違うと思います。それは球磨川流域らしい復興のあり方の一つのベースとなるのではないかと思っています。人吉は人吉で都市ですし、観光都市であり、農業農村でもあると思いますので、全く違っていると思います。 抽象的で申し訳ございません。
9	P6	復興（球磨川らしさ）	最後に球磨川らしいと結ばれていますが、ハードに対しては、どおしてもダム必要論が出てきますが、先生のお立場で球磨川らしさとはどのようにお考えでしょうか。	地域として、環境としての球磨川らしさというものは、もちろんあると思います。球磨川であり、山だと思います。今回の被害は、山が荒れていることが大きな要因だと思いますので、復興に際しては、山の再生が大きなテーマだと思います。 が、お伝えしたかったことはそのことではなく、球磨川流域らしい復興のあり方で、それは、上記の通り、結果論なのではないかと思っています。